

「ホテルビジネス基礎編」2026年度改訂版のポイント

■改訂主眼

コロナ禍を経て世界的な観光業・ホテル宿泊産業の激変の前後を見るタイミングとなり、一部のデータにおいてはコロナ禍以前の2019年のデータと比較した状況を記述したが、業界動向についてはコロナ禍回復期にあたる2023年度のデータを基本に2024年時点で編集・執筆したものである。

1998年の初刊以降、四半世紀の間に現場における業務そのものや対応手段や手順も大きく変化しており、伴い現場で使われる名称・呼称や専門用語も変遷を辿ってきた。

そこで今回の改訂に際しては、特にホテルの基本業務の3本柱である宿泊・料飲・宴会の各部門の実務における常識の棚卸を念頭に既に使用されていない職種・呼称・用語等の整理や業務内容などの精査を現役の部門従事者と分野の有識者で「改訂・編集PJTチーム」を編成して検証した。これにより現場実務の実態をより多く反映した学習内容にアップデートを図った。

また、旅館業法の一部改正に伴う「カスタマー・ハラスメント」に対する対応理解、「HACCP完全義務化」に伴う衛生管理の重要性の理解、そして「プラスチック資源循環促進法」の施行による代替客室アメニティーの取組みと環境保護の視点等の理解を促すような学習内容を加味した。

■目次構成

全10章（全345ページ）目次詳細については別紙参照

■各章における主な修正・加筆箇所と新たに追加した用語

●第1章 ホテルの基礎

[第1節] 世界の観光産業動向を2023年度の動向データを基本とした記述内容に修正

世界の宿泊産業動向を2023年度の動向データを基本とした記述内容に修正

3大ホテルチェーンのブランドカテゴリーと展開状況を図表で追記

国内における2020年代のホテル動向を加筆

2023年以降に開業（予定）する主な外資系ホテルを図表で追記

宿泊税の導入都市の追記

[第3節] 「多様な食文化への対応」等グローバル視点の対応について加筆

（食物アレルギーへの対応と責任、多様な食志向、ユニバーサル・ツーリズムへの対応）

関連法規において図表内の年号を「西暦/和暦表記」に統一

関連法規において「プラスチック資源循環促進法」を加筆

本章のまとめ：全面修正・加筆

学習のポイント：全面修正・加筆

追加用語：UNTourism（UNWTO から改称）、フード・ダイバーシティ、プラスチック資源循環促進法、ユニバーサル・ツーリズム、オーバー・ツーリズム

●第2章 宿泊部門

[第1節] 部署リーダー呼称の一部修正削除

部署呼称の一部修正・変更 ユニフォーム・サービス⇒フロント・サービス等

[第2節] 客室タイプ一覧（表2-4、2-5）：一部修正・加筆

ロビー・フロント周りの設備：一部修正・加筆

防犯・緊急設備：一部修正・加筆

ページング：説明文の修正・加筆

レセプション業務として「クラブラウンジ運營業務」を追記

ホテルにおける外貨両替について説明内容を修正・加筆

コンシェルジュの業務：全面修正・加筆

ベッドメイク：説明文の修正・加筆

本章のまとめ：一部修正・加筆

学習のポイント：全面修正・加筆

追加用語：クラブラウンジ

●第3章 料飲部門

[第1節] 部署リーダー・担当者呼称において一部修正

サービス方式の表記修正 アメリカン・サービス⇒アメリカ式サービス等

メニューの基礎知識として「アフタヌーンティー」を追記

グリーター・グリートレスの呼称修正⇒レセプション・レセプションニスト

オーダーテイク時における食物アレルギー有無の確認の重要性について加筆

学習のポイント：全面修正・加筆

追加用語：モクテル、ソバーキュリアス

●第4章 宴会部門

[第2節] 宴会の種類として「葬儀宴席」を追記

学習のポイント：全面修正・加筆

追加用語：特になし

●第5章 調理部門

[第2節] 食材（魚・野菜等）の表記をカタカナに統一 かき⇒カキ 平日⇒ヒラメ等

新調理法として「ニュークックチル」について追記

顧客志向の説明文の全面修正・加筆

本章のまとめ：一部修正・加筆
学習のポイント：全面修正・加筆
追加用語：特になし

●第6章 マーケティング部門

[第2節] マーケティング戦略において「4C理論（分析）」を追記
広告媒体の特性分野表6-9に「SNS」と「WEB広告」を追記
各種マネジメントのブランディング・マネジメントの説明文の全面修正・加筆

本章のまとめ：ホテルのマーケティング活動と役割を追記
追加用語：デジタル・マーケティング、SNS・マーケティング、アプリ・マーケティング

●第7章 総務・人事部門

[第2節] 表7-2 文書管理の保存年数における文書種類の一部修正
採用における説明文の一部修正・加筆
書式例図7-3における労働契約書の差替え・修正
賃金割増しに関する記述の一部修正・加筆

追加用語：カスハラ（カスタマー・ハラメント）

●第8章 施設管理部門

[第1節] 表8-1 参考事例 の全面修正

追加用語：SDGsのゴール12「つくる責任、つかう責任」、客室制御システム（GRMS）、IPTVソリューション、スマートミラー、サーキュラー・エコノミー

●第9章 仕入・購買部門

[第1節] 業務の基本的な流れについてシステム処理操作の手順で説明内容を修正
食中毒についての記述を全面修正・加筆
義務化されたHACCPに関する記述を全面修正・加筆
ホテルの環境保護への取り組み義務を追記
管理編に記載のあるコラムの移動

追加用語：牛トレーサビリティ法、プラスチック資源循環促進法、食品リサイクル法
その他一部修正用語あり
HACCP（ハセップ）→HACCP（ハサップ）、鹿児島黒豚→かごしま黒豚

●第10章 経理・会計部門

[第2節] 表10-7、10-8 宿泊領収書事例の全面修正

追加用語：特になし

■学習・指導について

学習内容が大きく修正された第1章における世界の観光業・宿泊業の動向は、観光庁が公表した「令和6年観光白書」におけるデータをもとに解説を加えているので、観光業全体の国内外の動向やホテル宿泊業界のコロナ禍からの回復傾向については、図表とともに具体的な変化を理解することが重要となる。

その他、B1レベル受験者におかれては、第6章以降の各管理部門の業務においても時流に合わせた手法や戦略、あるいは新たに生まれた法規・法令の名称、改正などに伴う様式や手順などの変更に伴い修正を加えている内容が少なくないので、新たに加えられた専門用語等には注意が必要である。

また、受験対策指導においては、今回の改訂で記載内容が修正・加筆された箇所は、新たな設問が作られる可能性の高い箇所なので検定試験の受験対策としては、本改訂のポイントを活用して頂くことと併せて「ホテルビジネス基礎編 2021 改訂版」と照合しながら職種や部署名などの呼称修正や新たな追記内容を確認することをお勧めする。

以上